

1. 調査概要

調査会社：ヤフーバリューインサイト株式会社

調査方法：同社ホームページ上の自己選択方式によるWebアンケート

調査地域：全国 調査時期：2007年12月4・5日

対象者：500名（男性：250名、女性250名・20～60歳代、事前調査で週1回以上「健康食品」を利用しているとの回答者）

健康と食品懇話会 07年度
消費者研究ワーキンググループ

2. 健康食品の利用実態

本調査では健康食品を『一般に広く健康の保持・増進に役立つ食品として販売・利用されるもの全般を指し、形状は加工食品、飲料、サプリメント等全てを含む』と定義し、形状の違いにより次の4タイプに分類し、各々普段主に利用している商品に関して回答してもらった。

- ①ビタミン・ミネラルのうちいずれか1つ以上を摂取するための【錠剤・カプセル・粉末型サプリメント】
②ビタミン・ミネラル以外の、その他の栄養素を摂取するための【錠剤・カプセル・粉末型サプリメント】
③健康の維持・増進に役立つ【飲料・ドリンク】
④【サプリメント】や【飲料・ドリンク】以外の健康の維持・増進に役立つ【食品】

具体的な商品名を確認したところ、①のビタミン・ミネラル系サプリメントや③の飲料・ドリンクでは、医薬品や医薬部外品を挙げている人が2～3割と多数見られた。それらの回答は除外して解析を行った結果、各タイプ別の利用実態は、以下の通りであった。

- ①ビタミン・ミネラル系サプリメント [217名 (43%)]
②その他サプリメント [219名 (44%)]
③飲料・ドリンク [181名 (36%)]
④その他の食品 [153名 (31%)]

男女別では①②のサプリメント系や④のその他の食品で女性の利用率が高かった。（図1）

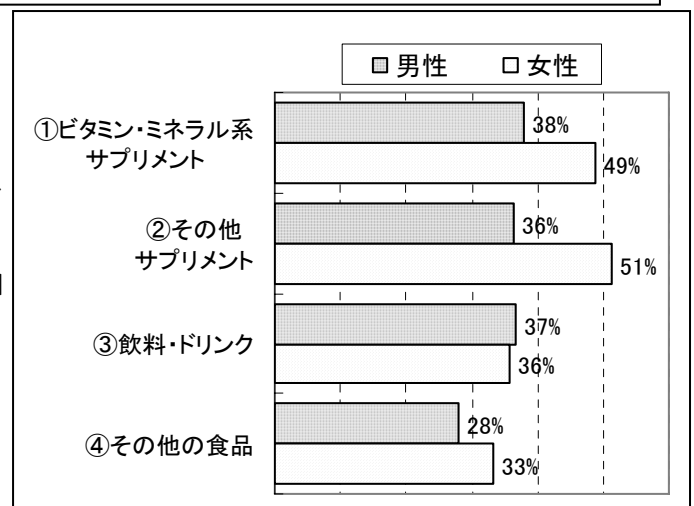


図1 各タイプ別の男女別健康食品利用率

★各タイプ別に、多数挙げられた商品を具体的に以下に示す。（ ）内は件数

①ビタミン・ミネラル系サプリメント (217)

1. マルチビタミン (63)
 2. ビタミンC (29)
 3. マルチビタミン&ミネラル (19)
- (その他) 葉酸、ビタミンB群、亜鉛、カルシウム、ビタミンE、鉄、マルチミネラル・・・

②その他サプリメント (219)

1. コエンザムQ10 (39)
 2. ウコン (23)
 3. コラーゲン (17)
- (その他) ブルーベリーエキス、α-リポ酸、ローヤルゼリー、アミノ酸+コラーゲン、クロレラ・・・

③飲料・ドリンク (181)

1. 野菜ジュース [缶入りまたはペットボトル入り] (26)
 2. 健康茶 [缶入りまたはペットボトル入り]
 3. 乳酸菌飲料 (18)
- (その他) 黒酢、青汁、ヨーグルトドリンク、牛乳、スポーツドリンク・・・

④その他の食品 (153)

1. ヨーグルト (23)
 2. 納豆 (11)
- (その他) 黒酢、ソフトカプセル入り酢、豆乳、プルーン、青汁、わかめ等の海藻類、黒ゴマ、雑穀入りごはん、発芽玄米、にんにく漬・・・

3. 普段利用している健康食品の安全性に対する不安意識

普段利用している健康食品の安全性に対して、不安を感じるものが「ある」・「ややある」と回答した人は、①②のサプリメント系では約2割、③④の飲料や食品系では約1割であった。

不安を感じる具体的な内容は、①②のサプリメント系では、圧倒的に「成分の安全性」が挙げられ、次いで「原料の原産国」、「食品添加物の安全性」となっており、原料に起因する安全性が大きな不安要因であった。一方、③④の飲料や食品系では、「食品添加物の安全性」が一番に挙げられ、次いで「成分の安全性」、「製造メーカーの信頼性」、「原料の原産国」が挙げられていた。③④の飲料や食品形状の健康食品では、形状や摂取方法が一般食品と同じため、安全性について重視しているポイントも一般食品と類似する傾向が見られた。「食品添加物」のように従来からその安全性が注意されているものに加えて「原料の原産国」、「製造メーカーの信頼性」も挙げられたことは、最近の食品業界の偽装問題を反映しているように思われた。

安全性に対する不安について、「あまりない」、「考えたことがない」と回答した約8～9割の人に“不安がない理由”について複数回答してもらったところ、①～④のいずれの形状の健康食品であっても、圧倒的に1位に挙げられたのは「メーカーが信頼できるから」であった。このことから、消費者が健康食品を選ぶ際、メーカーの知名度や信頼性を安全性の重要な基準に据えていることがわかった。(図2～5)

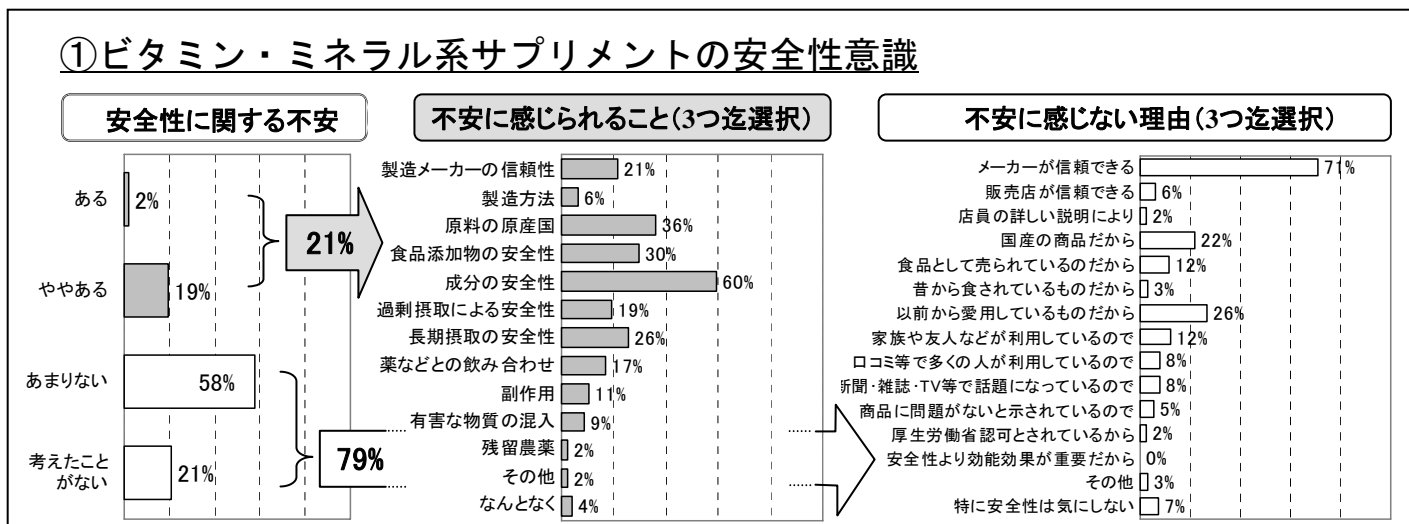


図2 普段利用している、①ビタミン・ミネラル系サプリメントの安全性意識 (217名)

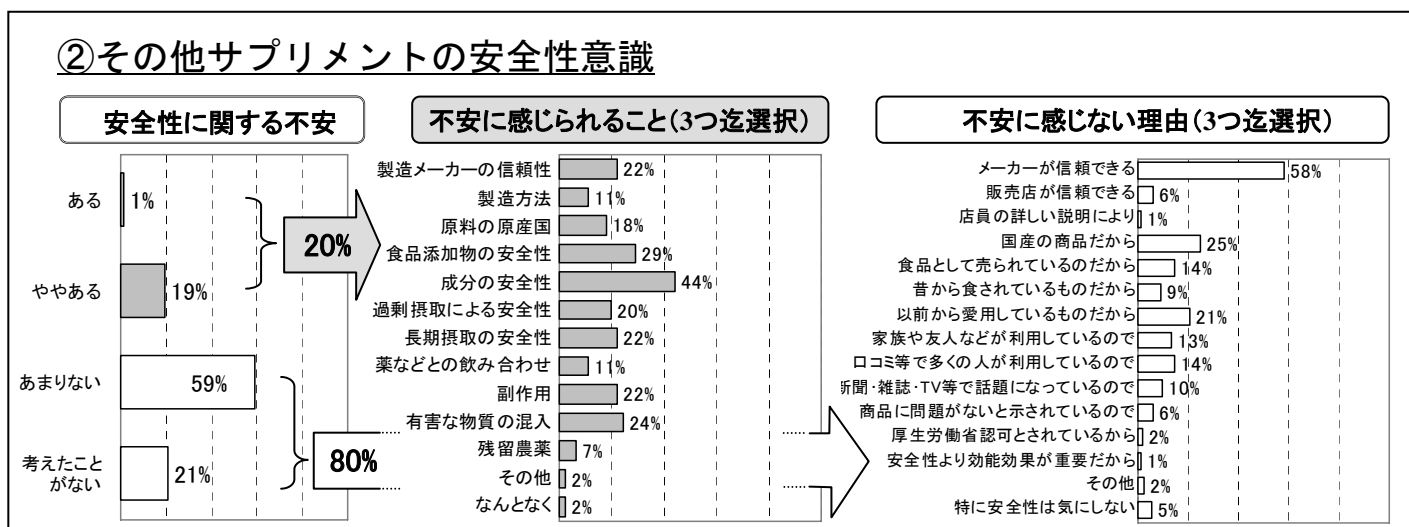


図3 普段利用している、②その他サプリメントの安全性意識 (219名)

③飲料・ドリンクの安全性意識

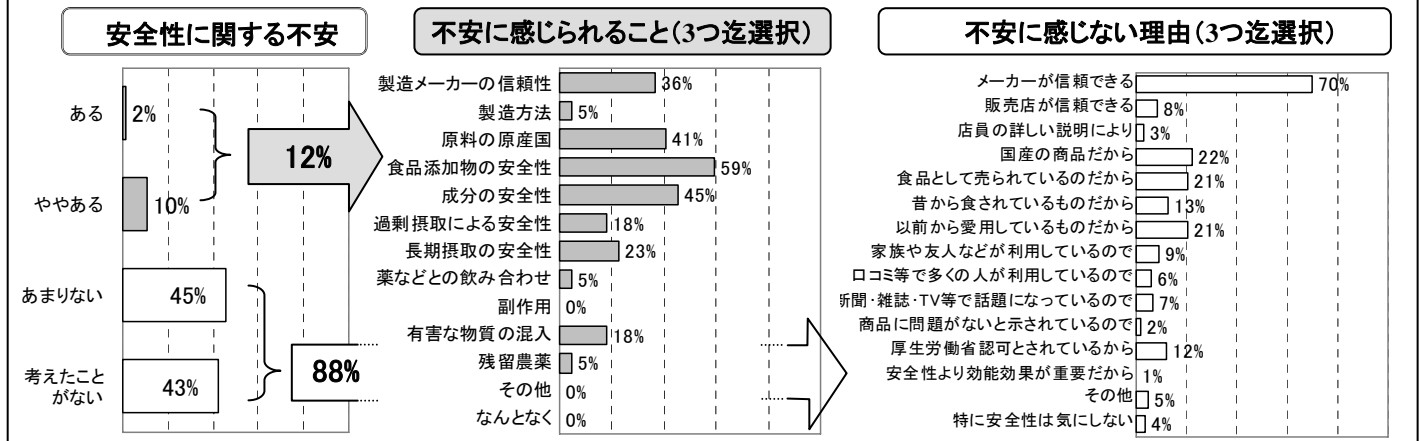


図4 普段利用している、3飲料・ドリンクの安全性意識（181名）

④その他の食品の安全性意識

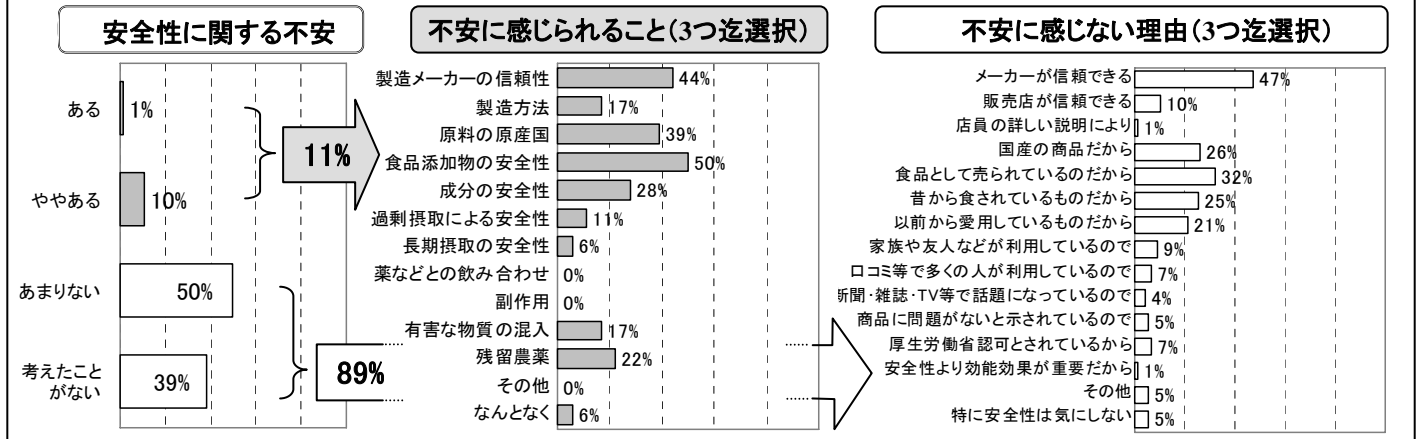


図5 普段利用している、④その他の食品の安全性意識（153名）

4. 「健康食品の安全性」に対する意識

普段から健康食品の安全性に対してどの程度意識して利用しているかについて聞いたところ、約半数の人が安全性に注意を払いながら利用していることが明らかとなった（「必ず問題ないことを確認して利用」＋「できるだけ注意して利用」）。また、「安全性は気にしているが、判断する方法がない」との回答も約4割と高く、全体的に安全性に対する関心の高さがうかがえた。

このように普段から高い安全性意識のもとで、様々な健康食品の中から自分に必要な商品を選んで利用しているため、「3.」で見られるように、普段利用している健康食品の安全性に対してはそれほど不安を感じてはいないものと思われた。（図6）

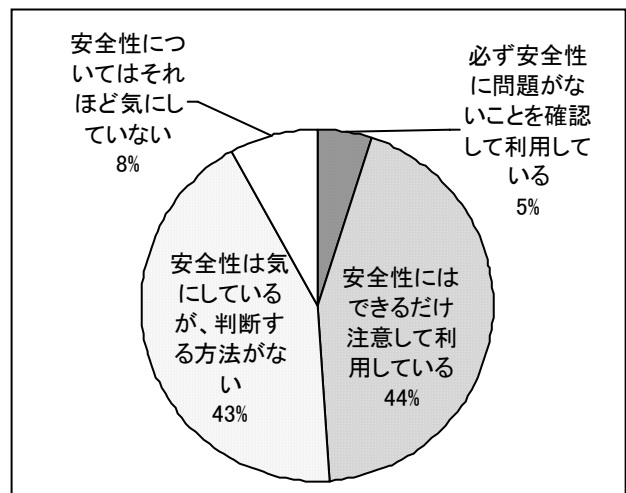


図6 普段の「健康食品の安全性」に対する意識（N=500）

5. 安全性の認証マークについて

現在、「原料や製造方法、商品に対して、安全性が十分確かめられた食品につける認証マーク」の導入を健康食品業界全体で検討している。そこで、今回、そのような認証マークがあると安心であるか、という問いかけを行った。その結果、男女とも「安心である」「やや安心である」を合わせると約9割の人が安全性に関する認証マークについて好意的に捉えていることがわかった。

また、『実際にそのマークのついた商品があったら購入するか』との質問に対しては、「認証マークのついた商品のみを買う」(10%)、「できる限りマークのついた商品を買う」(42%)、「同じような商品であれば、認証マークの商品を選ぶ」(39%)と、ほとんどの人が認証マークがあれば購入時の参考にしたと答えており、男女ともほぼ同じ結果であった。このことから、新たに健康食品向けの安全性に関する信頼性の高い認証制度、マークを導入する意義は大きいものと思われた。(図7～8)

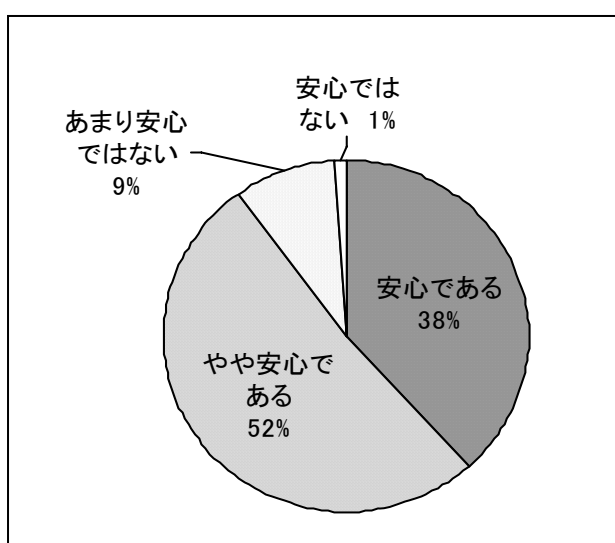


図7 安全性に関する認証マークについて
(N=500)

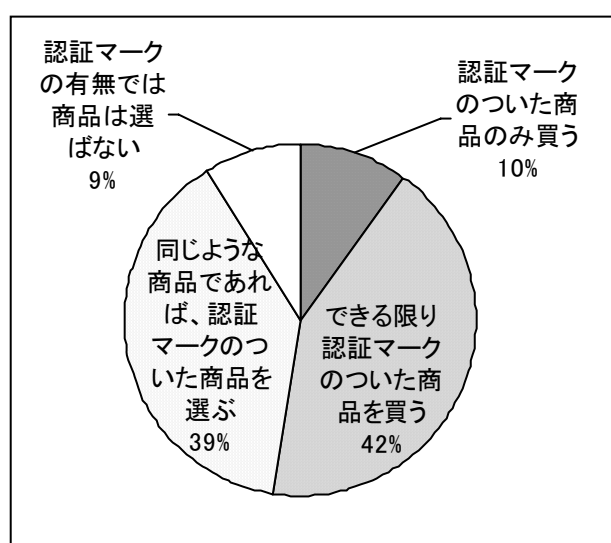


図8 安全性に関する認証マークの利用について
(N=500)

6. まとめ

今回は「消費者の健康食品に対する『不安』に着目した意識、実態」を調査したが、その結果、日常の摂取においてはそれほど商品の安全性に対して不安を感じることはなく摂取されており、あまり意識されていないことがわかった。

これは消費者が自分なりに、健康食品の利用基準を設けており、それに沿って選択したものを使用しているからであると推察された。

しかしながら定期的に摂取するという健康食品の特性から、特にサプリメント系の商品では、一般食品とは異なる安全面での不安解消のためのツールが求められていることがうかがわれた。メーカーに信頼性を求めたり、認証制度に対する期待があることが示された点は、これらが将来、健康食品の安全性を評価するための判断材料として利用されうるものであることを示しているものと考えられた。